

回答集（7/24 三国中校区）

※ 対話集会でのご質問・ご意見に対し、当日、会場にて十分なお回答ができなかった内容について、ご回答いたします。

- (1) 質問者 A：市の予算書を校区公民館に置いて、市民が閲覧できるようにできないか。【意見交換議事録 1 ページ】

回答：市の予算書につきましては、現在、本庁舎 2 階ロビーや市の図書館（当初予算書のみ）に配置しているところです。また、市のホームページからは閲覧及びダウンロードができるよう掲載しております。

各校区公民館への配置についてですが、29 年度の当初予算書におきましては、数に限りがあることから、今年度の 6 月議会に提出しました補正予算書から配置して参ります。

- (2) 質問者 J：横隈山古墳公園の土砂災害警戒区域における安全対策をしてほしい。【意見交換議事録 7 ページ】

回答：横隈山古墳公園周辺の皆様には、日頃から公園管理についてご協力いただき誠にありがとうございます。教育委員会からも深く感謝申し上げます。

市としても横隈山古墳公園を保存・管理・活用する上で、公園の環境整備は懸案事項と考えており、その実現に向けて努力しているところです。

横隈山古墳は、昭和 48 年に「みくに野東団地」の宅地造成に伴う埋蔵文化財の調査によって発見された前方後円墳で、当時、市民による遺跡の保存運動によって現地に保存された経緯をもつ遺跡でもあります。

しかし、開発から 40 年以上が経過し、公園内の雨水排水施設等の見直しや急傾斜地の保護も新たに行う必要が出てきております。

今後は、周辺住民の皆様のご意見をうかがい、急傾斜地における被害の防止・軽減を図り、住環境はもとより、文化財の保護や活用も視野に入れた環境整備を進めていきたいと考えております。

- (3) 質問者K： 防災行政無線が聞こえないので、防災情報等が確実に市民に届く対策を行ってほしい。【意見交換議事録8ページ】

回 答： 防災行政無線については、屋外のスピーカーから音声放送を行うシステムですので、気象条件により音達範囲も異なり、どうしても聞こえにくくなる地域もありますし、住宅の高気密化により、屋内にいますと聞こえないという状況も発生すると考えております。

現在、災害時の情報伝達については、防災行政無線のほかにもエリアメール、防災メールまもるくん、市及び消防団による広報、行政区長・自主防災組織への電話連絡など複数の手段を用いて行っておりますが、防災行政無線が整備されたことにより、災害時における情報伝達手段の一層の多様化が図れたと考えております。

ただし、防災行政無線も災害情報の伝達手段の1つであり、防災行政無線のみですべての市民の方へ情報を伝達できるものではないということをご理解いただきますようお願い致します。

防災行政無線につきましては、小郡市全域をカバーすることになると、スピーカー毎の音達範囲が重層的に重なってしまうことになり、スピーカーのハウリングや音声の共鳴によって、逆に放送が聞こえなくなるとの指摘を受けています。

また、気象条件によっても音達範囲が異なってくることから、音達範囲の関係で部分的にカバーできないエリアや聞き取りにくくなるエリアもあるようでございます。

このような状況があることから、災害時には、多様な情報源を確保するという観点から、新たな手法の検討を考えてまいります。

また、防災行政無線からの災害情報の放送内容は、防災メールまもるくんでも必ず送信しますので、確実な災害情報の伝達のために市民の皆様への防災メールまもるくんの登録を今後も推進していきたいと考えております。